

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑 ほほえみ		
所在地	大分市大字志村字谷ヶ迫587番地の1		
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年5月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・周囲を緑に囲まれた静かな環境で、四季折々を常に肌を感じることできゅっくりとした時間を過ごせます。
 ・入居されている方の、精神的安定と身体機能を低下させないことを第一に考え、「あなたらしくいきいきと」をモットーに日々過ごして頂いています。その為に、苑内勉強会や外部研修に参加し、職員の質の向上に取り組んでいます。
 ・常に玄関はオープンにして、外部の方々が気軽に立ち寄り交流を図れるような環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全体にゆとりが感じられ、掃除が行き届き明るく清潔である。裏庭に居間から自由に出入りができ、季節の野菜や花など自然と触れ合うことができる。高台に位置していることから、災害時には地域の避難所として駐車場が活用されるようになっており、地域をあげての防災訓練も実施されている。利用者の思いや希望を把握して、地元の祭りや買い物、食事にと出かけることが多く、自宅訪問など個別の対応もなされている。職員は意欲的に研修に参加している。また、職員は笑顔で接するよう心掛け、言葉かけも穏やかで利用者も自分らしく、笑顔で過ごしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスでの意義をふまえた理念は掲げている。地域社会との交流については実践のつながりは薄いですが、その他の理念に関しては管理者及び職員は深く理解し、ケアへの実践につなげている。	玄関、事務室や各フロアの見やすい位置に理念を掲げ、全員で共有している。実践に向け具体的に着実に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や近所のスーパー・コンビニに買い物に出掛け、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしている。また、地域の行事(お祭り・防災訓練など)可能な限り参加している。	散歩や買い物時などには挨拶を交わし、近隣の方からも野菜のおすそ分けをいただくなど馴染みの関係ができています。回覧板や市報で地域行事や状況が掴め、日常生活の中に取り入れられ、祭りや地域防災活動にも活かされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及びスタッフは事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修等に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動や行動等の報告を行っている。参加者からはいつも多くの意見が出され参加者及び事業所にとって、とても有意義な会議となっている。	定期的に開催され、地域代表や行政が参加し、建設的な意見が出され、行事が参加や防災など、サービスの向上につながっている。また、地域の認知症に対する理解・啓発となり、相談を受けるきっかけとなっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは事業所の実績やケアサービスの取り組みを機会あるごとに報告している。また認定更新等の機会に市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。	支所から地域行事のお知らせがあり、利用者が参加している。支援の方法で困った時には相談し、アドバイスを受けながら取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面に配慮しながら、その時々々の行動に対し見守り声かけを行い拘束をしないケアを実践している。	身体拘束について学習会などで学び、知識を得たうえで、安全性を配慮した取り組みについて話し合い、家族に確認し、支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロについて職員全体会議で議題に上げ意見交換を行い、見過ごしや防止の注意に努めている。また、担当者会議において、個々のケアについて十分に話し合いを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、内部勉強会で伝達講習を必ず行い、全職員の理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、納得された上で署名・捺印をいただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情については管理者が窓口になって対応している。又ご意見箱を設置し気軽に意見を伝えられるように場所も考慮して設置している。年1回の家族会にて、意見交換を開催。	家族会や意見箱などで意見を求めている。運営推進会議の参加やアンケートなど実施しているが意見は少ない状況である。面会時、さりげなく意見を言っている方も見られる。	意見を出しやすいアンケートの工夫や家族のさりげない言葉に対応し、運営等に反映していくことが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望は1日3回(朝・昼・夜)のミーティングや定例会議(職員全体会議)で聞くようにしている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行っている。	一つひとつのことを職員と話し合い検討している。職員は目標管理シートを提出し、面接にて意見を聞き取っている。毎日3回のミーティングや定期的な会議で話し合い、記録の方法など改善している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように、取り組んでいる。勤務の希望は出来る限り全員に組入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、個々の目標達成に向けて、できる限り研修を受けられる機会を与えることで、スキルアップに繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所や同時期に開設した事業所などと交流を持つことにより、一緒に学んだり、親睦を深めたり、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を必ず確認している。また、入居直後は、環境の変化で不安が大きく、情緒不安定になる為、目配り・気配り強化に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時にご本人及びご家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅や包括との連携を図る事で他のサービスへつなげられるように支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事(調理 洗濯 掃除等)について入居者の残存機能に応じて、積極的に参加して頂いている。共に行う上で人生の先輩であることを尊重しお互いに支えられる関係作りを行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態など面会時や電話連絡にてために伝えているが、当ホームのご家族の方々は頻回に面会に来られるため電話連絡は少ない。ご家族との連携は出来ていると思う。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの方に電話をしたいと希望すれば、いつでも電話ができるように支援している。また、祭事・法事、盆正月等は、帰省し今までの生活習慣を継続できるように努めている。	利用者が自宅へ季節の花を取りに行き、ホーム内に飾って楽しんでいる。友人との外泊や行きつけの美容院を利用するなど、馴染みの関係継続を支援している。また、医療デイサービスを利用し、新しい馴染みの場所となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員が情報を共有し、利用者同士の良好な関係が築けるように職員が働きかけを行う。また、共用の空間で行事・レク活動に参加して頂くように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。また、家族からの相談にもものっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを図るなかで、思いや意向の把握に努めている。又、介護記録(日報)に記録し管理者及び全職員で共有するよう努めている。	毎日の記録に思いや要望、気持ちなど書き込んだ、「伝達ノート」を活用し、職員で共有している。個々のやりたいことなど把握し、支援に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に、管理者及び全職員で努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察、心身状態を把握し介護記録(日報)に記録し、職員間の情報交換に努めている。記録(日報)及び確認することにより現状把握維持に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向をふまえ本人が楽しめること、好きなこと、ご家族が希望することを聞き反映させる。	ケアプランを支援に活かせるよう、記録を工夫し、毎日実践しているか確認している。家族や本人と話し合い、担当職員、看護師やケアマネージャーを中心に作成し、ユニット会議で意見を出し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、家族から意向を聞いている。入居者一人一人の様子を介護記録に明確に記入しスタッフ間で共有している。又ケアプラン作成時には参考になっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な発病時などは病院へ付き添い受診等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において市役所、地域包括支援センター、民生委員、自治会長等の参加にて地域情報の提供やアドバイス等を受けている。又、近所のスーパーやコンビニに入居者と一緒に買い物に出かける等の支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の支援を得て、主治医又は協力医療機関を定期的に受診し、健康管理を行っている。必要時、情報を提供している。	隣接の東部病院をかかりつけ医としている人が多いが、馴染みの医院への診察や往診、専門医療機関でのサービスの利用も行っている。協力病院と連携用紙を通して情報を共有し、家族同行時も共有し、医師と信頼関係ができています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職が入居者のバイタルチェックを毎日実施し、常に情報交換を行っている。又主治医には必要時、情報を伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院が隣接しているため、日頃からMSWとの連携を図っており、情報収集も可能であるためスムーズな対応が出来る。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取り・重度化に関して、契約の際に御家族に書面にて説明し、同意を受けている。また、終末期に関しては、その状態に陥った時、新たに同意書を頂くようにしている。	看取りの指針を文書化し、利用開始時提供している。延命についても家族や本人の意思を確認し、同意を得ている。隣接病院やかかりつけ医と連携した医療体制ができています。グループホームの現状として、できることを職員で話し合い、指針の見直しを計画しています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に参加し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確保、消火器の使い方などの訓練を入居者、管理者及び全職員で定期的に行っている。また、地域の防災訓練に参加している。自治区にも加入して地区の消防団との連携に努めている。	年2回、利用者も参加して避難訓練を行っている。夜間想定訓練や地域全体の災害防災訓練がホーム前で行われている。また、地域の避難場所となっている。自治区消防団が火災予防週間には見回り体制もあり、事前のホーム内視察により、緊急時には迅速な対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や職員会議にて、職員の意識向上を図ると共に、本人の誇りやプライバシーを損なわない対応を徹底している。	本人を尊重した言葉使いをしている。入室時はノックをし、支援時も声掛けして対応している。排泄時の声掛けについても研修に参加したり、職員間で学び合って実践している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に能力に合わせた対応を心かけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが、一人一人の体調や生活パターンを把握し、入居者に合わせた支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/月美容師の訪問にて、希望に添ってカット、カラー、パーマなど行っている。日常の更衣は、本人に衣類を選んで頂くなど本人の意思を尊重した支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片付けを一緒に行っている。また、随時、食事外出や食事会を設けている。	昼食のみホームで作っており、管理栄養士の献立でバランスのとれた食事である。職員も利用者とは話をしながら楽しく食事をして、準備や片づけのできる部分をしている。また、食べたいものを外食で個別に支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量を記録し、管理者及び全職員で把握するようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロア又は居室の洗面台で歯磨きを行ってもらうよう声かけをしている。上手く磨けない入居者には職員の介助により、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い、自立にむけた支援に努めている。	チェック表を基に誘導し、自立に向けて取り組んでおり、日中の失禁が減少している。職員は行動や表情から便意や尿意をくみ取り、自力で排泄できるよう支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の献立、水分摂取、散歩、レク体操(適度な運動)にて便秘予防に努めている。下剤、整腸剤はかかりつけ医に処方して頂き調整している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフ配置にて、1週間最低3回と決めている。また拒否がある場合は、日時を変更し、清拭・更衣等を行い、希望に沿った対応をしている。	週3回以上の入浴に努めている。拒否者に対しては気の合う職員の声掛けや、隣のユニットで入浴を行うなど工夫している。状況により清拭や部分浴で清潔を保っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や本人の意思に応じ、休息時間をもうけている。また、布団を干したり居室の環境を整え、快眠できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、その日担当者(リーダー)が責任を持ち、各自、食後に服用している。薬品説明書を1冊のファイルにし、管理者及び全職員がすぐに閲覧、把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りをもって頂く為に好きなこと、出来ること、得意なことをお願いしている。(食事の準備 後片づけ 掃除などの役割を持って頂いている。)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、散歩実施。本人の希望に沿い、随時、買い物、ドライブ外出などを行っている。また、入居者に意見を聞き計画し遠方に出掛けている。	本人の希望により、自宅に帰って様子を確認したり、行事や買い物に出かけている。天気の良い時は散歩や居間から庭に自由に出て季節を体で感じている。地域の祭りや馴染んだ地域の催しに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、本人がお金を所持することはないが、お金を所持していないと不安である方は、家族の方と相談し少額のお金を所持してもらい、使えるような機会をもうけている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望があれば、いつでも電話できるように支援している。また、自筆での、年賀状・暑中見舞いを家族・親類・友人に出す支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のフロアは、外出時や行事の写真を掲示又居室前に自作品を飾ったりするなど居心地良く過ごせるように工夫をしている。	居間から自由に庭に出ることができるなど開放的で、畳や掘りごたつでのんびりと過ごすこともできる。居室の前の壁に行事や楽しかった時の写真や思いのこもった小物・作品を飾っている。全体にゆったりとした空間での移動や人間関係に配慮した工夫がみられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎをテーマに、ソファーや掘りごたつで入居者同士がゲームや談笑して過ごせるように工夫をしている。また、玄関前と裏庭にベンチを設置し、外気浴やお茶をする時間をもうけ、気分転換を図っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や調度品など自由に持ち込んで頂き、馴染みの物に囲まれた居室で過ごせるように配慮している。	毎日、気分に合った服が選べるような工夫や、家族とくつろげる配慮など個々に合わせた居室となっている。位牌等大切なもの、化粧品や本など馴染んだものを持ち込んでその人らしさを保てるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで手すりを設置し入居者が安全に生活出来るようにしている。又状態や状況に応じて家具などの配置の変更を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑 きらめき		
所在地	大分市大字志村字谷ヶ迫587番地の1		
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成24年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・周囲を緑に囲まれた静かな環境で、四季折々を常に肌を感じる事ができゆっくりした時間を過ごせます。
 ・入居されている方の、精神的安定と身体機能を低下させないことを第一に考え、「あなたらしくいきいきと」をモットーに日々過ごして頂いています。その為に、苑内勉強会や外部研修に参加し、職員の質の向上に取り組んでいます。
 ・常に玄関はオープンにして、外部の方々が気軽に立ち寄り交流を図れるような環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ほほえみと同様

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスでの意義をふまえた理念は掲げている。地域社会との交流については実践のつながりは薄いですが、その他の理念に関しては管理者及び職員は深く理解し、ケアへの実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や近所のスーパー・コンビニに買い物に出掛け、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしている。また、地域の行事(お祭り・防災訓練など)可能な限り参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及びスタッフは事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修等に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動や行動等の報告を行っている。参加者からはいつも多くの意見が出され参加者及び事業所にとって、とても有意義な会議となっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは事業所の実績やケアサービスの取り組みを機会あるごとに報告している。また認定更新等の機会に市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面に配慮しながら、その時々への行動に対し見守り声かけを行い拘束をしないケアを実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロについて職員全体会議で議題に上げ意見交換を行い、見過ごしや防止の注意に努めている。また、担当者会議において、個々のケアについて十分に話し合いを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、内部勉強会で伝達講習を必ず行い、全職員の理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、納得された上で署名・捺印をいただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情については管理者が窓口になって対応している。又ご意見箱を設置し気軽に意見を伝えられるように場所も考慮して設置している。年1回の家族会にて、意見交換を開催。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望は1日3回(朝・昼・夜)のミーティングや定例会議(職員全体会議)で聞くようにしている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように、取り組んでいる。勤務の希望は出来る限り全員に組入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、個々の目標達成に向けて、できる限り研修を受けられる機会を与えることで、スキルアップに繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所や同時期に開設した事業所などと交流を持つことにより、一緒に学んだり、親睦を深めたり、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を必ず確認している。また、入居直後は、環境の変化で不安が大きく、情緒不安定になる為、目配り・気配り強化に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時にご本人及びご家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅や包括との連携を図る事で他のサービスへつなげられるように支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事(調理 洗濯 掃除等)について入居者の残存機能に応じて、積極的に参加して頂いている。共に行う上で人生の先輩であることを尊重しお互いに支えられる関係作りを行っている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態など面会時や電話連絡にてために伝えているが、当ホームのご家族の方々は頻回に面会に来られるため電話連絡は少ない。ご家族との連携は出来ていると思う。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が馴染みの方に電話をしたいと希望すれば、いつでも電話ができるように支援している。また、祭事・法事、盆正月等は、帰省し今までの生活習慣を継続できるように努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について職員が情報を共有し、利用者同士の良好な関係が築けるように職員が働きかけを行う。また、共用の空間で行事・レク活動に参加して頂くように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。また、家族からの相談にもものっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを図るなかで、思いや意向の把握に努めている。又、介護記録(日報)に記録し管理者及び全職員で共有するよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に、管理者及び全職員で努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察、心身状態を把握し介護記録(日報)に記録し、職員間の情報交換に努めている。記録(日報)及び確認することにより現状把握維持に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向をふまえ本人が楽しめること好きなこと又、ご家族が希望することを聞き反映させる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、家族から意向を聞いている。入居者一人一人の様子を介護記録に明確に記入しスタッフ間で共有している。又ケアプラン作成時には参考にしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な発病時などは病院へ付き添い受診等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において市役所、地域包括支援センター、民生委員、自治会長等の参加にて地域情報の提供やアドバイス等を受けている。又、近所のスーパーやコンビニに入居者と一緒買い物に出かける等の支援を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の支援を得て、主治医又は協力医療機関を定期的に受診し、健康管理を行っている。必要時、情報を提供している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職が入居者のバイタルチェックを毎日実施し、常に情報交換を行っている。又主治医には必要時、情報を伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院が隣接しているため、日頃からMSWとの連携を図っており、情報収集も可能であるためスムーズな対応が出来ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取り・重度化に関して、契約の際御家族に書面にて説明し、同意を頂いている。また、終末期に関しては、その状態に陥った時、新たに同意書を頂くようにしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に参加し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確保、消火器の使い方などの訓練を入居者、管理者及び全職員で定期的に行っている。また、地域の防災訓練に参加している。自治区にも加入して地区の消防団との連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や職員会議にて、職員の意識向上を図ると共に、本人の誇りやプライバシーを損なわない対応を徹底している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に能力に合わせた対応を心かけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが、一人一人の体調や生活パターンを把握し、入居者に合わせた支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/月美容師の訪問にて、希望に添ってカット、カラー、パーマなど行っている。日常の更衣は、本人に衣類を選んで頂くなど本人の意思を尊重した支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片付けを一緒に行っている。また、随時、食事外出や食事会を設けている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量を記録し、管理者及び全職員で把握するようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロア又は居室の洗面台で歯磨きを行ってもらおうよう声かけをしている。上手く磨けない入居者には職員の介助により、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い、自立にむけた支援に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の献立、水分摂取、散歩、レク体操(適度な運動)にて便秘予防に努めている。下剤、整腸剤はかかりつけ医に処方して頂き調整している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフ配置にて、1週間最低3回と決めている。また拒否がある場合は、日時を変更し、清拭・更衣等を行い、希望に沿った対応をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や本人の意思に応じ、休息時間をもうけている。また、布団を干したり居室の環境を整え、快眠できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、その日担当者(リーダー)が責任を持ち、各自、食後に服用している。薬品説明書を1冊のファイルにし、管理者及び全職員がすぐに閲覧、把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りをもって頂く為に好きなこと、出来ること、得意なことをお願いしている。(食事の準備 後片づけ 掃除などの役割を持って頂いている。)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、散歩実施。本人の希望に沿い、随時、買い物、ドライブ外出などを行っている。また、入居者に意見を聞き計画し遠方に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、本人がお金を所持することはないが、お金を所持していないと不安である方は、家族の方と相談し少額のお金を所持してもらい、使えるような機会をもうけている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望があれば、いつでも電話できるように支援している。また、自筆での、年賀状・暑中見舞いを家族・親類・友人に出す支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のフロアは、外出時や行事の写真を掲示又居室前に自作品を飾ったりするなど居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎをテーマに、ソファーや堀こたつで入居者同士がゲームや談笑して過ごせるように工夫をしている。また、玄関前と裏庭にベンチを設置し、外気浴やお茶をする時間をもうけ、気分転換を図っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や調度品など自由に持ち込んで頂き、馴染みの物に囲まれた居室で過ごせるように配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで手すりを設置し入居者が安全に生活出来るようにしている。又状態や状況に応じて家具などの配置の変更を行っている。		